

文化財建造物保存・活用シンポジウム

～文化財の活用による地域の活性化～

平成26年3月11日開催

愛知登文会では、所有者の文化財建造物に対する学習・情報交換の場を提供するものとして文化財建造物保存・活用講座を実施しています。活動3年目となる25年度の最後に、愛知登文会の取り組みを報告するとともに、文化財建造物に対する関心を高め、様々な立場の人々が連携して取り組んでいくきっかけとなる場としてシンポジウムを開催しました。登録文化財制度立ち上げに関わられた工学院大学の後藤先生の基調講演のほか、愛知県、京都府で保存・活用に取り組む方々を交えてパネルディスカッションを行いました。

基調講演

「いま改めて考える—歴史的建築物の保存・活用の意義」 後藤治氏（工学院大学建築学部建築デザイン学科教授）

パネルディスカッション

パネリスト	塚本喜左衛門氏 …… 京都登文会会員 (SACRA ビル所有者)・ツカキグループ代表・NPO 三方よし研究所理事長
	大島八重子氏 …… 湊屋倶楽部会長・コミュニティサロン野の花代表・シャンソン歌手
	後藤治氏 …… (前述)
	長谷川良夫氏 …… 愛知登文会会長・NPO 法人犬山城下町を守る会会長
コーディネーター	小栗宏次氏 …… 愛知登文会副会長・小栗家住宅所有者

基調講演 後藤 治氏

地方都市では少子高齢化により空き家の増加が進み、それが歴史的建築物であるケースも多く、壊されている実態がある。また、都市部では開発により歴史的な建物が壊されている。歴史的建築物や町並をどう保存して活用していくかを考えなければならない。

世界文化遺産はほとんどが建築物と町並が主役であることを考えただけでも歴史的建築物や町並が観光の主役になることがわかる。所有者の方々にとっては「文化財＝観光資源」と言われることに対して相当抵抗があると思うが、維持管理は非常に大きな問題で、観光資源や地域に有用な役割を果たす公共的な役割があることによって公的支援が得られると認識いただきたい。一方、所有者以外の国民や地域住民は、歴史的建築物や町並という資産によって生まれる恩恵を享受しているので、それを公的に支援する必要がある。具体的には、「歴史的建築物の活用（利用）の促進」と「市民との共同による保存・活用の促進」が挙げられる。建物の利用・使用が建物を救う一歩になることを知っていただきたい。

国家戦略特区における規制改革事項等の検討方針の中に、歴史的建造物の活用が入ったことは画期的と言える。

パネルディスカッション

◆保存・活用をまちづくりにどのようにつなげていくか

小栗氏：NPO をはじめとした市民活動の話はよく聞く一方で、資金的にも人材的にも継続が難しいところもある。市民活動が長く続き成功するノウハウは何か。

大島氏：とにかく口で訴えるしかない。地元の方に、ここは歴史があるところで、この町並みを保たないといけないという想いを会う人に伝えている。

◆文化財の活用、まちづくりへの展開について

長谷川氏：犬山の町並み保存は時代に上手く乗れた結果だと思う。日本の伝統建築は今取り組まなければやがて消滅してしまうのではないかと危機感を感じている。塚本氏：商業利用の観点で言うと、外観は建築した当時に戻すことが大事だが、水回りは便利でなければいけない。内部に特徴をつけて、皆が使いたいと思う文化財は素敵だと思う。

後藤氏：行政との関わりについては、NPO がイベントをやる時には関係しそうな行政部局に招待状を出して、来てくれた方を仲間に引き入れるのがベストだと思う。ヨーロッパでもNPO 活動が上手くいっているところは行政のOB がメンバーとして参加している。



1 事業実施報告「こども文化財体験事業」(2013年度)

尾関家住宅(犬山市)

テーマ：文化財になっている古民家で犬山焼の絵付けを体験してみよう！

尾関家住宅は、犬山城の御用瓦を製造し、後に犬山焼を復興した窯元の屋敷です。主屋と土蔵は、約170年前の天保14(1843)年頃に建てられ、平成11年(1999)に国登録有形文化財に登録されました。

はじめに、一級建築士であいちヘリテージマネージャーの奥村氏より、建物の歴史や特徴について解説いただき、内部と庭・外観を見学しました。その後、所有者で犬山焼の窯元である尾関氏より、犬山焼の絵柄の種類やつくる工程などを解説いただき、実際に犬山焼の器をつかって絵付けを体験しました。絵付けが早く終わった子ども達は、制作現場も見学させていただきました。

H26.3.15(土)	内容	参加者
14:00~ 14:30	①尾関家住宅の紹介(建物のお話と見学) 講師：一級建築士、あいちヘリテージマネージャー 奥村正則氏	小学1-5年生 21名 保護者17名
14:30~ 16:00	②犬山焼の紹介、絵付け体験、制作現場の見学 講師：所有者 尾関立志氏、尾関佳子氏	



建物内部の見学



犬山焼の工程についてお話を伺う



座敷で絵付け体験

窯のある広場・資料館(INAXライブミュージアム)(常滑市)

テーマ：やきもののまち常滑 文化財の魅力を知り、地域の宝を探そう！

INAXミュージアムの「窯のある広場・資料館」のある常滑は、古くから窯業で栄え、日本六古窯のひとつとされています。「窯のある広場・資料館」は、大正10年につくられた両面焚倒焰式角窯(資料館)と煙突がまぼ当時の姿のまま残され、平成9年(1997)に資料館と煙突が国登録有形文化財に登録されました。

まちなかにやきものを活用したデザインが多々あることから、周辺のやきもののデザインを探すフィールドワークを組み合わせた企画としました。はじめに、INAXミュージアムの竹多氏による解説で「窯のある広場・資料館」を見学し、その後、2グループに分かれてフィールドワークを行いました。フィールドワーク後は、まちなかで見つけたやきものの風景の写真を拡大地図にまとめて、最後に全体発表を行いました。

H26.3.16(日)	内容	参加者
13:00~ 13:30	①窯のある広場・資料館の見学・解説 講師：INAXライブミュージアム 竹多格氏	ボーイスカウト 23名 引率5名
13:30~ 15:00	②フィールドワーク「まちの中のやきもののデザインを探せ」 講師：ボランティアガイド 稲葉春彦氏、村田修氏	
15:00~15:20	タイル博物館の見学、休憩	
15:20~15:45	③グループでまとめ作業(地図で歩いたコースを確認、撮影した写真を貼り付け)	
15:45~16:00	④まとめの発表(グループ毎にまとめの発表、写真ベスト5の発表)	



窯のある広場・資料館の見学・解説



フィールドワークの様子



まとめ作業の様子



グループごとにまとめの発表

2 事業実施報告「観光ボランティアガイド育成事業」(2013年度)

鈴木家住宅 (愛西市)

鈴木家は江戸時代から佐屋地方の地主で、鈴木家住宅は、明治時代から昭和初期にかけて、県議会議員、衆議院議員、佐屋村長を歴任した鈴木家の当主鈴木仙太郎によって明治23年(1890)に建築されたと言われています。主屋は正方形平面の珍しい平面構成で、土間に平行して2列3室が並び、農家よりは町家に近い平面形式になっています。主屋・蔵・米蔵・門及び外塀が登録有形文化財に登録されています。

登録の際の所見を担当された名電高等学校の細野氏より解説をいただき見学しました。意見交換では「鈴木家住宅などを佐屋街道の拠点施設とし面的なまちづくりができる」といなどの意見が聞かれました。

H25.11.14 (水)	内容	参加者
13:30~13:50	開催趣旨、案内者・所有者紹介、本日の予定等 所有者よりあいさつ、お話	あいさいボランティアガイドの会 18名 +その他3名
13:50~15:10	専門家による建物の特徴と魅力についての解説 講師：細野耕司氏(名電高等学校)	
15:10~15:30	質疑応答、参加者の感想・意見	



玄関前で所有者・専門家よりお話を伺った

内部見学(2階広間)

最後に参加者全員で感想と意見交換

木曾川資料館 (一宮市)

木曾川資料館主屋は、旧木曾川町会議事堂として大正13年(1924)に役場庁舎(木造平屋建、H15年に取り壊し、現在商工会館)などとともに建てられました。庁舎とは独立した建物として建てられ現存している事例は全国的にきわめて珍しいとされています。木曾川資料館主屋とともに国登録有形文化財に登録されている収蔵庫は、旧木曾川町役場倉庫として同時期に建設され、外観は伝統的な土蔵造の蔵のようですが、躯体は鉄筋コンクリート造で小屋組みにトラスが用いられており、鉄筋コンクリート造と木造の混構造です。

名古屋大学の西澤氏と一宮市木曾川資料館の川井氏より解説をいただき見学しました。参加者からは「改めて知ることも多く、伝えることのヒントも教えてもらい勉強になった」などの感想が聞かれました。

H26.3.5 (水)	内容	参加者
9:30~9:40	開催趣旨、愛知登文会の紹介、本日の予定等	尾張一宮観光ボランティアガイドの会他 8名
9:40~10:30	専門家による建物の特徴と魅力についての解説 講師：西澤泰彦氏(名古屋大学大学院環境学研究科 准教授)	
10:30~11:15	建物見学と解説 講師：西澤泰彦氏、川井達朗氏(一宮市木曾川資料館)	
11:15~11:30	参加者の感想・意見	



資料展示室となっている議事堂議場



資料館外観



収蔵庫外観



収蔵庫の内部

知立神社（知立市）

知立神社は市内の北端部、国道1号線と155号線が直交する地点の森に鎮座しています。本殿、幣殿、拝殿、祭文殿及び廻廊、摂社親母神社、茶室が平成25年11月15日付で国登録有形文化財に答申されました。また、敷地内には国重要文化財の多宝塔が所在しています。

はじめに、知立神社の神山宮司より知立神社についてお話いただいた後、愛知工業大学の杉野氏より、建物の特徴や魅力について解説いただき内部を見学しました。参加者からは、「普段入ることのできない内部を見学でき、実際に自分の目で確認できたことをガイドする際に伝えたい」などの感想が聞かれました。

H26.3.14（金）	内 容	参加者
10:00~10:10	開催趣旨、愛知登文会の紹介、本日の予定等	知立市観光ガイドボランティアの会 25名 +その他18名
10:10~11:30	所有者よりあいさつ、及びお話 講師：神山巖夫氏（知立神社宮司） 専門家による建物の特徴と魅力についての解説 講師：杉野丞氏（愛知工業大学建築学科教授）	
11:30~12:20	建物の見学と解説 講師：杉野丞氏、神山巖夫氏	
12:20~12:30	参加者の感想・意見	



専門家による解説



建物の見学と解説（内部）



建物の見学と解説（外観）

3 平成26年度事業計画

愛知登文会では、平成26年度も文化庁補助事業「平成26年度文化芸術振興費補助金（文化遺産を活かした地域活性化事業）」との連携により事業を実施します。事業の内容は下記のとおりです。

文化財所有者プロジェクト

- ①文化財建造物保存・活用講座事業（継続事業）—座学2回、県内現地視察3回、ミニシンポジウム1回を予定。
- ②登録文化財特別公開事業（新規事業）—県内の登録有形文化財建造物30カ所での特別公開を予定。うち、20カ所で専門家による建物解説を予定。

文化財子どもプロジェクト

- ①子ども文化財体験事業（継続事業）—県内の登録有形文化財建造物3カ所を対象に実施を予定。
- ②子ども文化財ガイド事業（継続事業）—県内の登録有形文化財建造物1カ所を対象に実施を予定。

地域連携プロジェクト

- ①観光ガイド育成事業（継続事業）—県内の登録有形文化財建造物1カ所を対象に実施を予定。
- ②登録文化財ネットワーク構築事業（新規事業）—スマートフォンを使った登録有形文化財建造物の案内システムの構築。県内のすべての登録有形文化財を対象とし、情報掲載は所有者の了承が得られたものを対象とします。

編集後記

桜の季節もいつしか過ぎ、新緑の葉が茂る季節となりました。平成25年度事業も、皆様のご支援・ご協力のもと、予定していた全ての事業を無事に終えることができました。感謝申し上げます。

平成26年度につきましても、本紙でご紹介させていただいたとおり、文化庁補助事業との連携で活動を進めてまいります。今年度も引き続き、ご支援ご協力の程、よろしく願い申し上げます。

愛知登文会ニュース 第8号

発行日：平成26年4月21日

発行者：愛知県国登録有形文化財建造物所有者の会
〒461-0025 名古屋市東区徳川一丁目10番3号
(一財)名古屋陶磁器会館内

TEL 052-935-7841 FAX 052-935-9592

E-mail info@aichi-tobunkai.org

URL <http://www.aichi-tobunkai.org>

FB <http://www.facebook.com/aichi.tobunkai>